

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 まず本文を声に出して読み、「にくし」がどんな形で何回出てくるかを数えてから、傍線の番号を手がかりに解きます。この段の山は「こそ…にくけれ」の係り結び、「やりつべけれど」の品詞分解、そして「にくし・むつかし・心恥づかし」の語義です。

あらすじ＝清少納言が「しゃくにさわるもの」を思いつくままに並べていく段。急いでいるのに来て長話をする客、しかも軽く追い返せない立派な相手。髪が入ったまますられた硯、石がまじってきしむ墨。急病人のためにやっと探し当てたのに、座なり眠そうな声を出す験者。眠ろうとすると細い声で鳴いて顔のまわりを飛ぶ蚊、着物の下で跳ねまわる蚤。千年前の「あるある」を、短く言い切る文で次々に切り取っている。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

にくきもの。急ぐことある^①をりに来(き)て、^②長言(ながごと)する^③まらうど。^④あなづりやすき人ならば、「のちに」とても^⑤やりつべけれど、さすがに^⑥心恥(こころは)づかしき人、^⑦いとにくくむつかし。

硯(すずり)に髪(かみ)の入(い)りて^⑧すられたる。また、墨(すみ)の中に、石のきしきしときしみ鳴りたる。

^⑨にはかにわづらふ人のあるに、験者(げんざ)求むるに、例(れい)ある所になくて、ほかに尋(たづ)ねありくほどに、待ち遠(どほ)に久しきに、^⑩からうじて待ちつけて、よろこびながら加持(かぢ)せさするに、このごろ物の怪(け)にあ

づかりて^⑪困(こう)じにけるにや、あるままにすなはち^⑫ねぶり声(ごゑ)なる、いとにくし。

^⑬ねぶたしと思ひて臥(ふ)したるに、蚊(か)の細声(ほそごゑ)に^⑭わびしげに名のりて、顔のほどに飛びありく。^⑮羽(は)

風(はかぜ)さへその身のほどにあるこそ、いとにくけれ。

蚤(のみ)もいとにくし。衣(きぬ)の下に躍(をど)りありきて、もたぐるやうにする。

語注 硯＝墨をする道具。にはかなり＝急だ。突然だ。わづらふ＝病気で苦しむ。験者＝加持祈祷で物の怪を追い払う修験者。読みは「げんざ」「げんじゃ」の両方があり、お使いの教科書のルビに合わせる。例ある所＝いつもいる所。からうじて＝やつのこと。加持＝病気の平癒などを祈る祈祷。物の怪＝人にとりついて病気を起こすと考えられた霊。困す＝疲れきる。弱る。読みは「こうず」。ある＝座る。わびしげなり＝いかにも心細そうだ。羽風＝羽ばたきで起こる風。蚤＝人や動物の血を吸う小さな虫。もたぐ＝持ち上げる。※本文の区切り方や表記は教科書によって少しちがうことがある。

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ①「をり」を漢字一字で書き、意味を書け。
- (2) ②「長言(ながごと)」の意味を書け。
- (3) ③「まらうど」の読みを現代仮名遣いで書け。また意味も書け。
- (4) ④「あなづりやすき」の「あなづる」の意味を書け。
- (5) ⑤「心恥(こころは)づかしき人」の「心恥づかし」の意味を書け。
- (6) ⑥「いとにくくむつかし」の「にくし」と「むつかし」の意味をそれぞれ書け。
- (7) ⑦「ねぶたし」の意味を書け。

B 文法 (8～13)

- (8) ⑧「やりつべけれど」を品詞分解し、それぞれを文法的に説明せよ。
- (9) ⑨「やりつべけれど」の「つ」が完了ではないと言えるのはなぜか、理由を書け。
- (10) ⑩「すられたる」の「れ」は何の助動詞の何形か。意味も書け。
- (11) ⑪「困(こう)じにけるにや」の「にや」のあとに省略されている語を補え。
- (12) ⑫「わびしげに名のりて」の「わびしげに」の品詞名・活用の種類・活用形を書け。
- (13) ⑬「羽風(はかぜ)さへその身のほどにあるこそ、いとにくけれ」から係助詞と結びの語を抜き出し、結びが何形になっているか書け。

C 主語・指す内容 (14、17)

(14) ⑤「やりつべけれど」とあるが、帰そうとしているのは誰か。

(15) ⑪「困(こう)じにけるにや」は、誰が、どうなっていると推し量った言い方か。

(16) ⑬「ねぶたし」と思つて横になっているのは誰か。

(17) ⑮の「その身のほど」とは、何の身の大きさのことか。

D 口語訳 (18、21)

(18) ④・⑤を含む「あなづりやすき人ならば、「のちに」とてもやりつべけれど」を口語訳せよ。

(19) ⑨を含む「にはかにわづらふ人のあるに、験者(げんざ)求むるに」を口語訳せよ。

(20) ⑩を含む「からうじて待ちつけて、よろこびながら加持(かぢ)せさするに」を口語訳せよ。

(21) ⑮「羽風(はかせ)さへその身のほどにあるこそ、いとにくけれ」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑦ 「いとにくくむつかし」とあるが、作者がそう感じるのはなぜか。四十字以内で書け（句読点も一字に数える）。

(23) ⑫ 「ねぶり声（ごゑ）なる」とあるが、この場面のどこが「にくし」なのか。四十字以内で書け（句読点も一字に数える）。

(24) ⑭ 「わびしげに名のりて」には、どのような表現の工夫があるか。技法の名を挙げて説明せよ。

(25) ⑮ 「羽風（はかぜ）さへその身のほどにあるこそ、いとにくけれ」のように、この文章で作者が「にくし」と感じているものには共通する特徴がある。それはどのようなことか、四十字以内で書け（句読点も一字に数える）。

F 文学史 (26～28)

(26) ⑦ 「いとにくくむつかし」を含むこの文章の出典の書名・作者名・文学の種類（ジャンル）を書け。

(27) ⑦ 「いとにくくむつかし」を含むこの文章のように、あるテーマに合うものを次々に並べていく『枕草子』の章段を何というか。同じ形式の段の例も一つ挙げよ。

(28) ⑮を含むこの文章の作者が仕えた中宮の名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「こそ…にくけれ」は係り結び。係助詞「こそ」を受けて、ク活用形容詞「にくし」が已然形「にくけれ」になっている。終止形「にくし」と答えると×。同じ段に連体形「にくき（もの）」、連用形「にくく」、終止形「にくし」もそろって出てくる。 ②「やりつべけれど」は「つ+べし」の重なり。「つ」はここでは完了ではなく強意（確述）で、「きっと～できる」と下を強める。「べけれ」は「べし」の已然形、「ど」は逆接。品詞分解でこの二語を取りこぼさない。 ③「にくし」「むつかし」「心恥づかし」は現代語と別物。にくし＝しゃくにさわる・いやだ、むつかし＝不愉快だ・うっとうしい、心恥づかし＝相手が立派でこちらが気おくれする。現代語の感覚で訳すと減点される。